

### 3 地域別の動向

#### (1) 北海道



北海道地域では、景気は足踏み状態となっている。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、下げ止まっている。

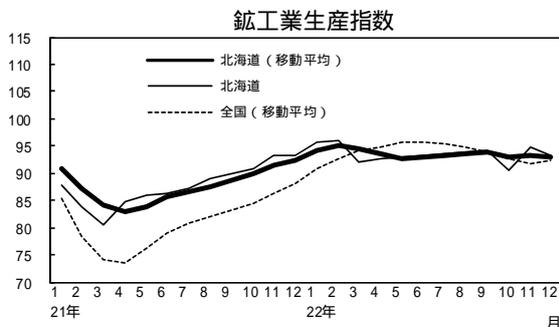
(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(   は上方に変更、   は下方に変更)

#### 前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 22 年 11 月)	今回 (平成 23 年 2 月)	
個人消費	持ち直し	おおむね横ばい	
観光	おおむね横ばい	やや弱含み	
住宅	大幅に増加	減少	
雇用情勢	下げ止まりつつある	下げ止まっている	

#### 1. 生産及び企業動向

- (1) 第一次産業は、生乳生産、水産物の水揚量ともに前年を下回っている。  
10～12月期は、生乳生産は、牛乳等向けは横ばいだったが、乳製品向けが減少したため、総量では944,641tと前年比1.8%減となった。水産物の水揚量(主要8港)は、ほっけを中心に前年を下回っている。
- (2) 鉱工業生産は、おおむね横ばいとなっている。  
食料品は、猛暑による乳牛減少で乳製品の生産が落ち込んだことや物価高騰により冷凍食品の生産が落ち込んだこと等から、減少した。パルプ・紙は、需要減少に対応するため、減産傾向が続いている。鉄鋼は、海外向け自動車の好調や、住宅需要の持ち直しにより、増加した。電気機械は、在庫調整や無線通信機器の生産が一時的に落ち込んだため、減少した。金属製品は、低水準であるが、本州で橋梁や鉄骨の需要があったことから、増加した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

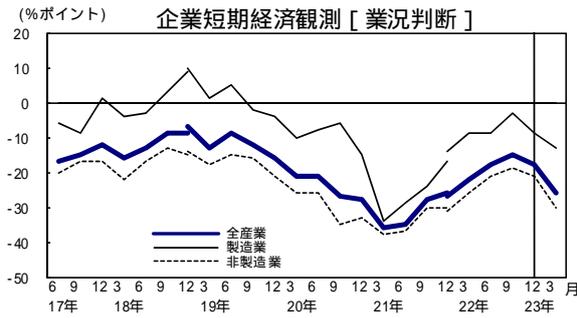
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		7～9 月期	10～12 月期	10～12 月期	10～12 月期
食料品	23.9	1.3	0.7	1.4	3.5
パルプ・紙	10.7	0.1	3.3	1.5	8.5
鉄鋼	8.6	1.3	2.1	1.2	9.4
電気機械	8.4	3.5	6.8	9.1	9.8
金属製品	8.0	2.6	11.0	13.8	18.3
鉱工業	100.0	1.0	1.1	0.3	1.0

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。  
2. 10～12月期は速報値。

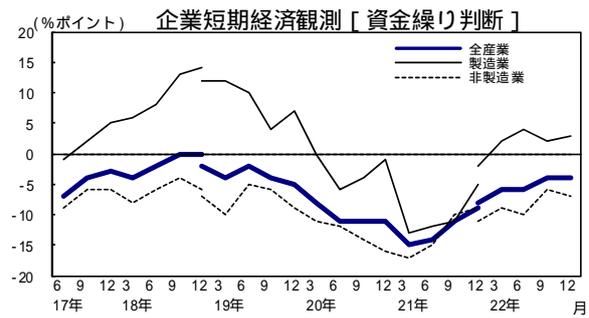
(備考) 1. 17年=100、季節調整値、北海道の最新月は速報値。  
2. 全国及び北海道の太線は後方3か月移動平均。

(3) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「苦しい」超幅が横ばいとなっている。

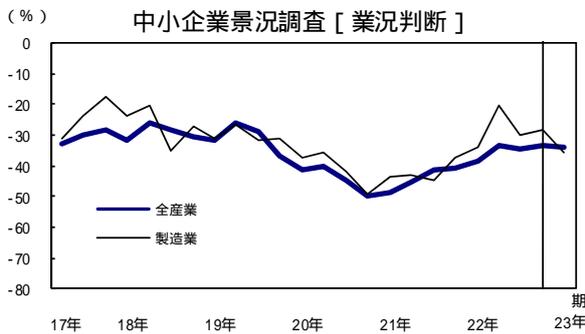
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。23年3月は予測。18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。23年 期は見通し。

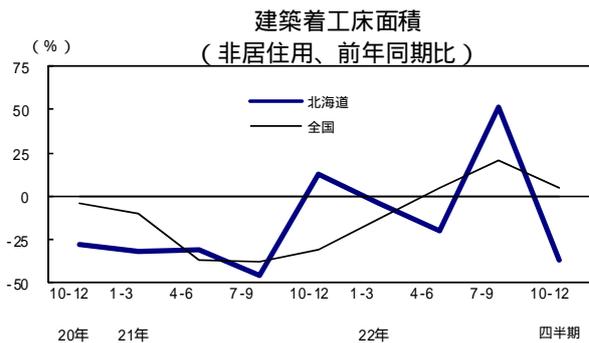
景気ウォッチャー調査(12月)[企業動向関連(現状)]  
「受注量、販売量ともに変わらず、低迷している状態が続いている(食料品製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(4) 22年度の設備投資は前年度を大幅に上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(12月調査)]

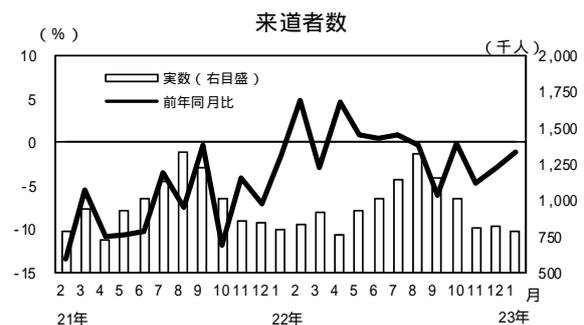
	(前年度比、%)	
	21年度実績	22年度計画
全産業	36.2	32.9( 4.1)
製造業	46.1	44.9( 0.8)
非製造業	30.2	27.2( 5.9)

(備考)( )は前回(9月)調査比修正率。電気・ガスを除く。



(5) 観光は、やや弱含んでいる。

来道者数は、10月は3連休の影響でJR、フェリーが好調だったが、航空機の減少により、全体ではほぼ横ばいで推移した。11月は、昨年よりも休日の並びが悪かったこと等から、前年を下回った。12月は、年末年始の旅行需要の低下や、日並びの悪さから、航空機で大きくマイナスとなった。1月は、JRが東北新幹線の影響で好調だが、航空機が不振だったため、全体では前年を下回った。



(備考)北海道観光振興機構調べ。

(1) 北海道

2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

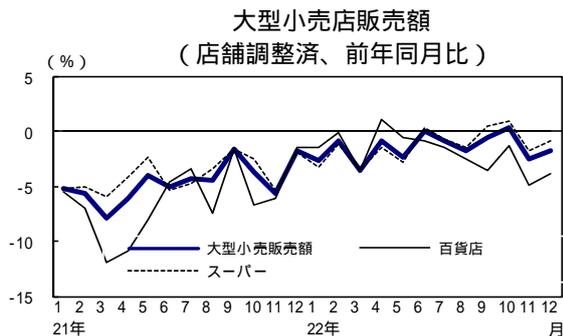
大型小売店販売額

百貨店は、10月は、月末の大雪によって冬物衣料が大きく動いたため、前年を上回った。11月は、前月に衣料品が売れた反動と、比較的暖かい日が続いたため、衣料品の動きが鈍く、前年を下回った。12月は、11月同様に比較的暖かい日が続いたことや、セールを控えた買い控え等から、前年を下回った。日本百貨店協会によると、1月の売上高は札幌地区で前年同月比5.5%減、札幌を除く北海道地区で同2.9%減となっている。

スーパーは、年末年始の食料品の動きが好調だったため、前年比低下幅は横ばいで推移した。

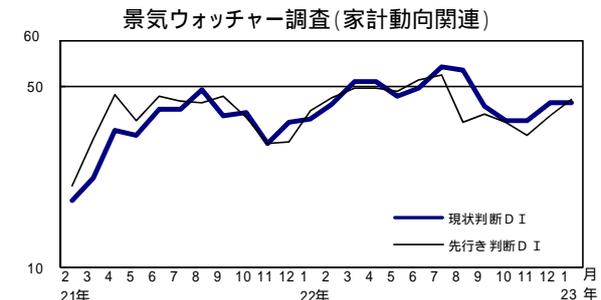
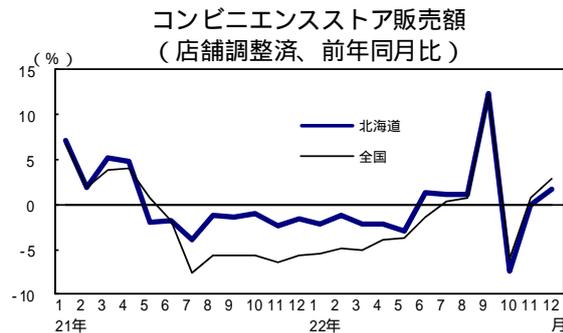
景気ウォッチャー調査(12月)[家計動向関連(現状)]

「11月度のエコポイント特需の反動があり、売上は前年よりは減少している。ただ、12月から付与ポイント数が半減したとは言え、家電エコポイント制度自体は継続しているため、ほぼ横ばいの状況である(家電量販店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比、%)			
	22年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
大型小売店	2.5	1.0	1.1	1.3
百貨店	1.8	0.1	2.5	3.4
スーパー	2.7	1.3	0.6	0.6
乗用車	21.6	20.7	10.9	23.8
景気ウォッチャー	46.5	49.3	51.1	43.6

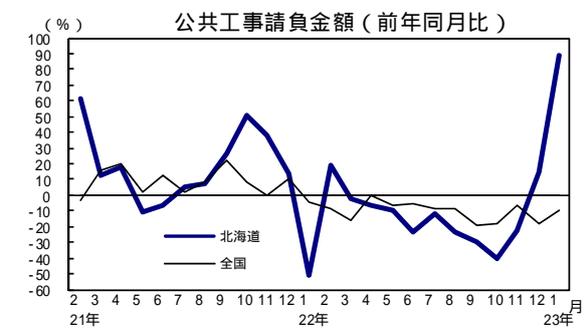
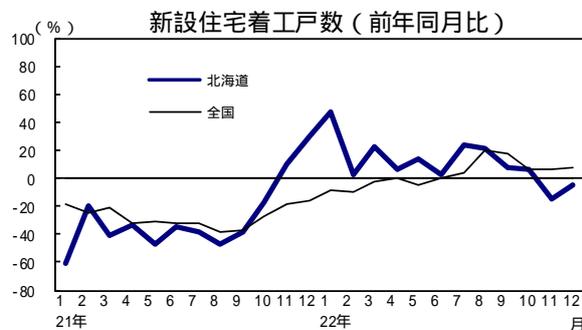
- (備考) 1. 大型小売店は店舗調整済。  
 2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。  
 3. 乗用車は乗用車新規登録・届出台数。



(2) 住宅建設は減少している。

持家が前年を上回ったものの、貸家や分譲が前年を下回ったことから全体では減少している。

(3) 公共投資は22年度累計で見ると前年度を下回っている。

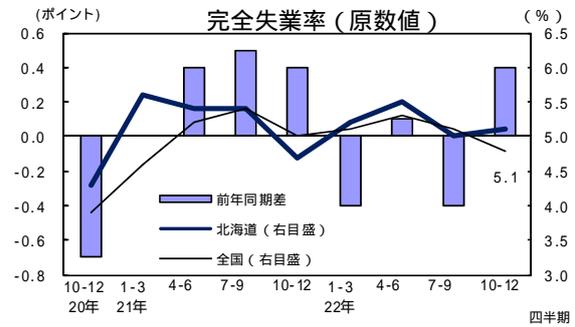
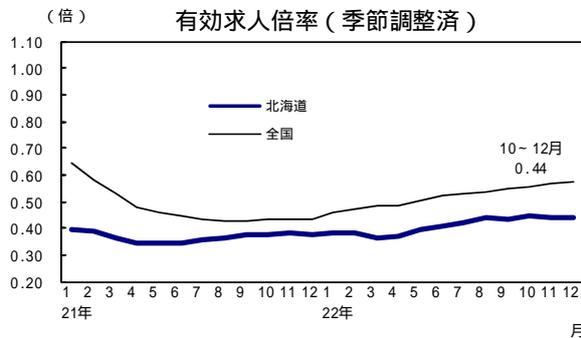


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、下げ止まっている。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率(全数)は上昇している。完全失業率は前年同期を上回っている。



景気ウォッチャー調査(12月)[雇用関連(現状)]

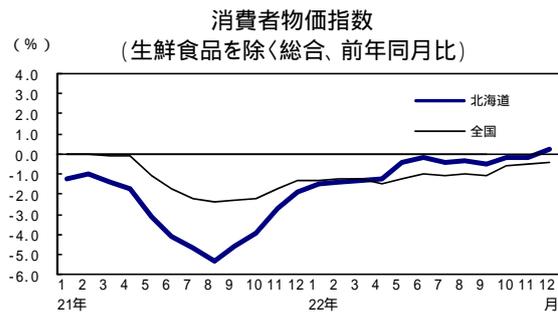
「前年比では求人件数に若干の増加がみられるが、ここ3か月の動きは微減傾向にある(求人情報誌製作会社)」など「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は前年比の下落幅が縮小している。

#### 企業倒産

	(件、億円、%)				
	22年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	23年1月
倒産件数	109	113	111	107	39
(前年比)	37.7	27.6	2.8	7.8	2.6
負債総額	250	429	198	241	97
(前年比)	77.0	40.3	50.9	39.4	18.9



景気ウォッチャー調査(12月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

・12月に入り、雪がテーマの観光やスキーでの宿泊客がメインとなっているが、降雪の遅れが影響してか、予約状況は前月や例年と比較しても10%近く悪い。(観光型ホテル)

<先行き>

・1~2月は道内各地で冬祭りがあり、国内・海外の客が増加する。また、当施設でもイベント等を企画することで、集客が期待できる(観光名所)。

景気ウォッチャー調査

(合計：家計動向関連+企業動向関連+雇用関連)

